

1963年6月

建築と社会

1963年・第44巻・6月号・目次

ARCHITECTURE & COMMUNITY

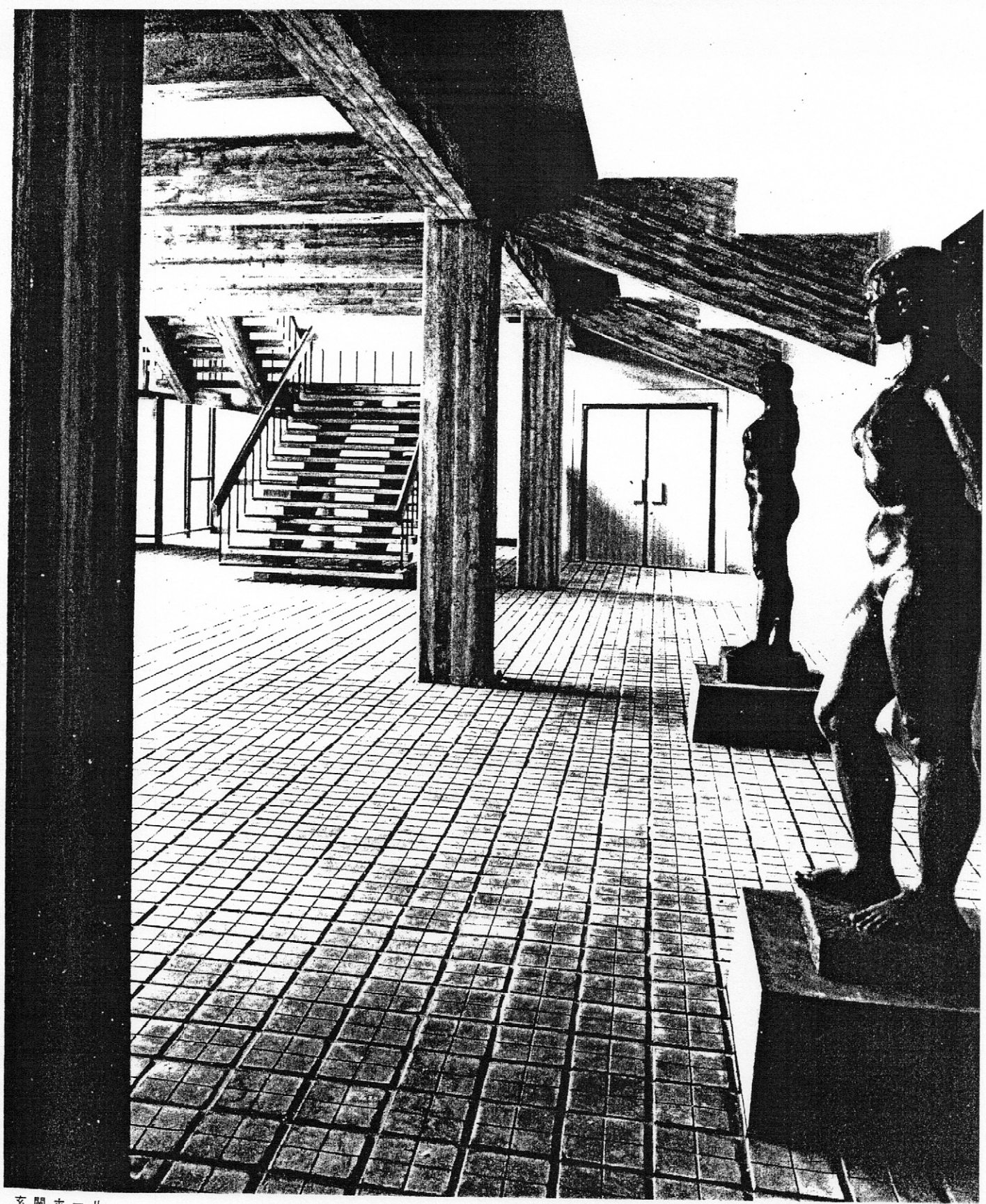
材料特集

6

作品作風	尾道市公会堂	設計監理：財団法人 建築研究協会	11
		施工：株式会社 大林組	
	岩国市体育館	基本設計：武藤武夫設計事務所	16
		設計監理：岩国市住宅管理課	
		施工：KK戸田組 広島支店	
建築の眼	担当50音順：松村 慶三・水谷 顕介・三輪 泰司・和田 周蔵		18
本文			
第1部・軽量気泡コンクリート特集			
	A.L.C研究会の概況と同会寸法形状部会の提案について	横山 不学	20
	シボレックスについて	大野 勇	24
	イトンについて	沢村 松男	27
	シリカリチート	旭化成工業KK	31
	特許「ペロロン」について	鈴木 信一	35
	麻生フォーム・クリートについて	石黒 文次・橋爪 豊	41
第2部・衛生陶器と建具金物特集			
	日本建築協会と建材委員会	建材委員会	46
衛生陶器	衛生陶器と附属金具について	政岡 基次	47
	衛生陶器回顧談 出席者：小川 誠耳・内田 成之・伴 秀雄・政岡 基次		53
建具金物	建具金物について	榊 弘美	61
	錠前対談会（中原英一・榊 弘美）		65
会員の頁			72
近代建築調査委員会報告 42			
	京都・河原町カトリック教会（天主堂）	近藤 豊	73
技術の頁	9. 施工部門：放射線と遮蔽	吉田 繁	75
職人シリーズ	第6回・ステンドグラス師（羽淵紅洲氏）	森 正信	78
ニュース	最近の中国建築界について	日中建築交流センター	79
投稿	宮古群島の民家について	久恒 治郎・脇本 啓一	82
会報	4月分		86

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会・SMデザイングループ

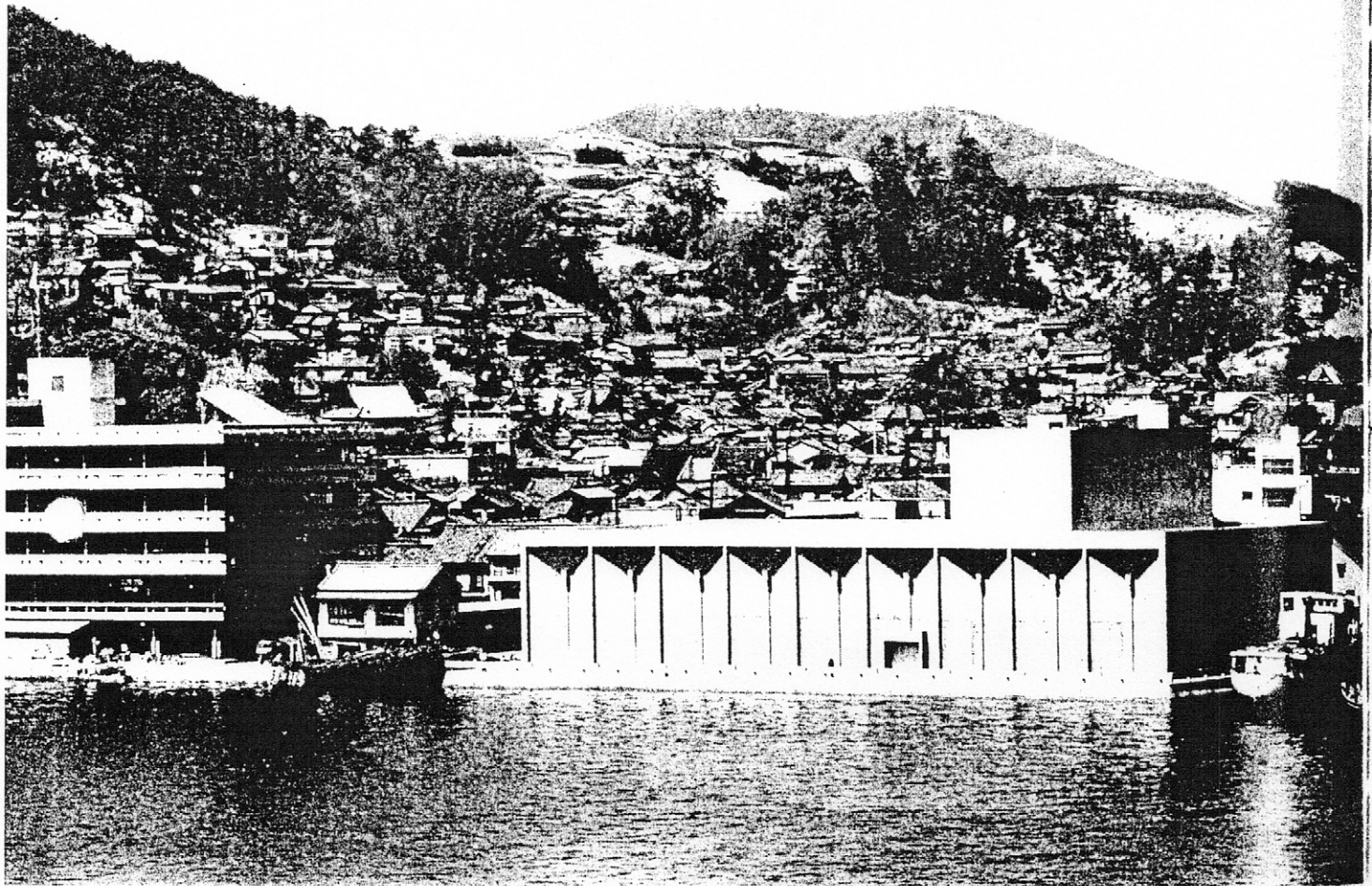
定価 1部 180円・送料共
 昭和38年6月20日印刷 昭和38年6月25日発行
 編集人 松井 昭光
 発行所 社団法人日本建築協会 大阪市東区北浜3丁目37
 電話大阪0648-9649-9640番 振替口座大阪39975番
 発行人 沖田 誠一
 印刷所 株式会社研文社 大阪市北区堂山町68 電話02091-3番
 印刷者 岡野 米



玄関ホール

設計監理 財団法人 建築研究協会
(京都大学増田研究室担当)
施工 株式会社 大林組

尾道市公会堂



向島より南側面を望む 左側：尾道市庁舎

尾道市公会堂

設計監理 財団法人 建築研究協会
 施工 株式会社 大林組

尾道市公会堂設計者のことば

この公会堂は1957年、われわれが設計した市庁舎の東隣りに建っている。狭く細長い尾道の街でも特にこのあたりは北は千光寺山、浄土寺山、南は尾道水道に面した狭い部分で、そのなかに白壁の土造もまじえ、家屋がぎっしりと建てこんだ街並で、空地が皆無といえる場所である。そこに旧庁舎を取りこわして新庁舎を建て、今また船溜りを埋立てて公会堂をつくったので、ささやかながら市民のための広場もできた。

最初市庁舎設計の時には海面の埋立てなどは思いもよらなかったで、公会堂には別の場所が予定されていた。その時の案では市庁舎とカーポートとが配置され、第二次計画として将来の人口増加にそなえて議会関係を現庁舎から出し、西隣りに建てるように計画されていた。この将来計画は今もなお生きている。

その後の公会堂の建設に当って、その敷地として新庁舎東隣りの船溜りを埋立てることが決定された。すなわちカーポートの位置を移動するとともに、広場には舗装、照明、植樹等が考えられ、また議会関係については最初の将来計画どおり、市庁舎の西隣りに将来の新築が考えられている。

平面については、人口約9万の都市の公会堂として多目的に使われることが要求されていたので、入口ホールでは種々の展示に使用されるよう、movable panel が考えられ、オーデトリウム内部でも前部に平土間部分を作り、その部分は移動椅子を用いて用途の変更にもなっている。また楽屋では、会議室、展示室等に利用されるよう movable partition が考えられている。

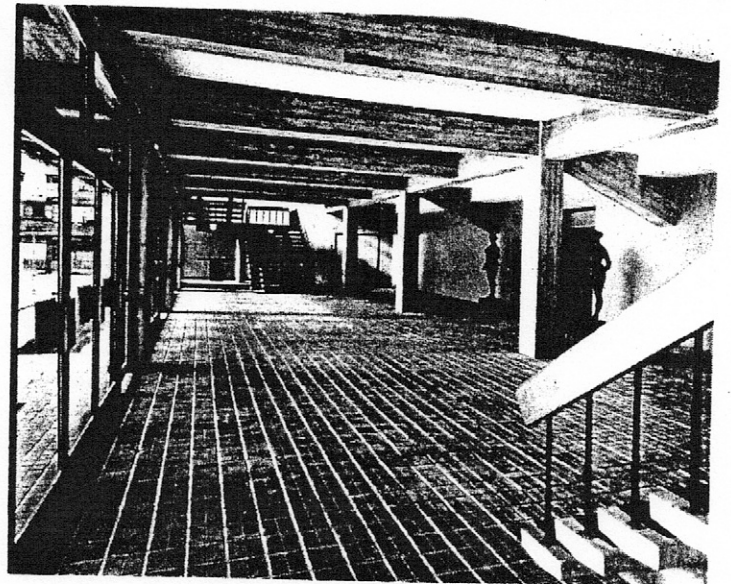
市庁舎とは、平面、立面双方にわたり同一 module をとった。これは庁舎との間に生まれる、形質の相異から来る、緊張感およびその統一を実現するための手段であった。将来造庭工事が完成すれば、設計者のこの希望はほぼ容れられるであろう。

またその構造については、海面を埋立てた敷地でもあり、地盤がよくないので、集中荷重をできるだけ排除し、またできるだけ軽くするために常套手段ながら桁版造を採用した。これには経済上の理由もあったが、しかしもちろん意匠上の計算もあってのことである。

最初に庁舎設計を始めてから6年、公会堂にかかってすでに5年、その間、敷地のみならず、建築条件も二転三転して、今日に見られるようなものになった。なお、われわれの全計画が完成するのに何年かが必要とするであろうが、その間市の岡田八郎建築課長とは、楽しみも、苦しみもともにして来た。また前後4年間にわたる大林組真尾篤氏以下の諸氏の一貫した誠意には今日ではまことに驚異に値すると思う。ともに記して感謝の言葉にかえたい。

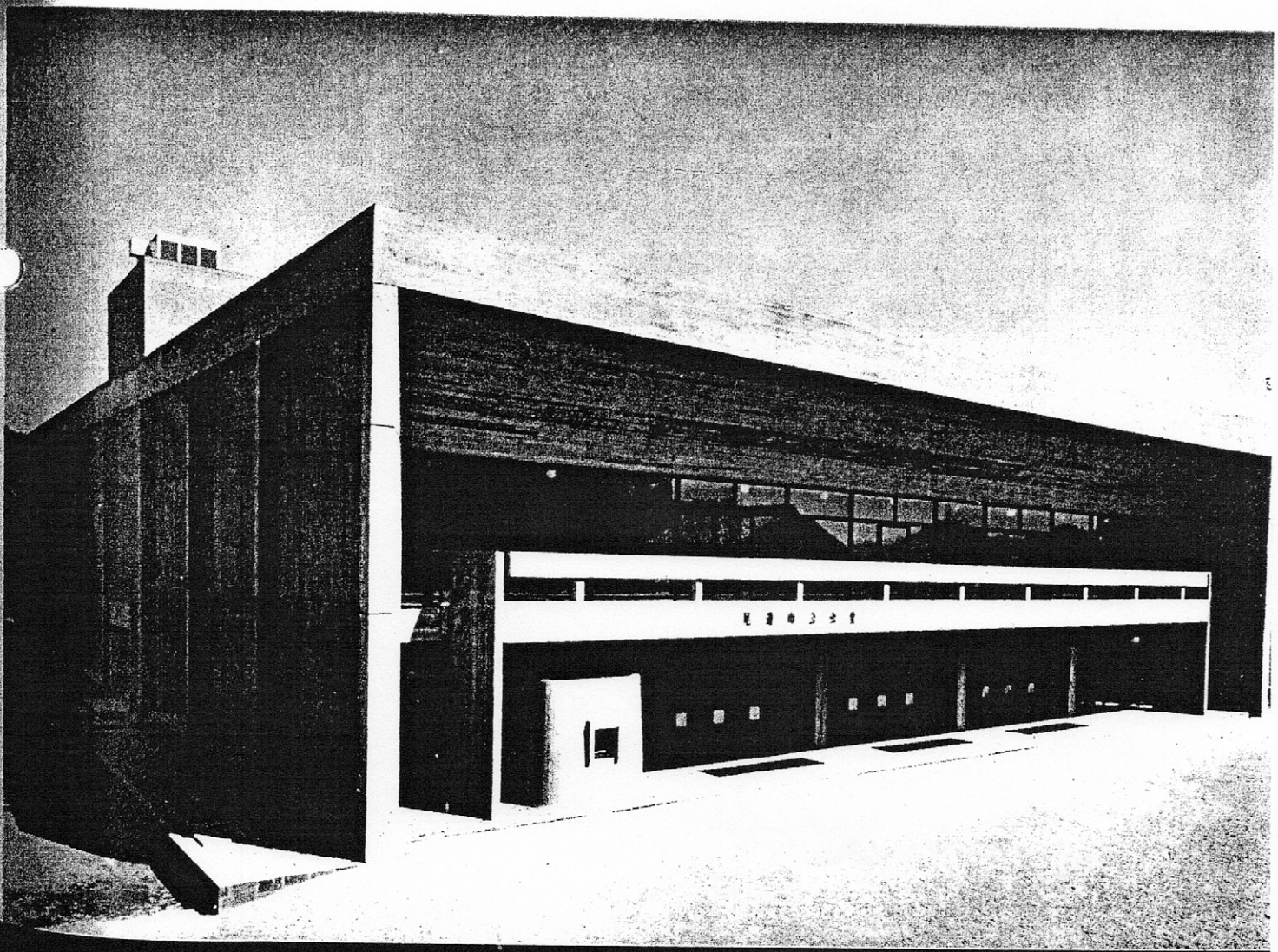
(指導：増田友也、建築担当：土井崇司、設備担当：原田武男、監理担当：馬淵栄一)

建築位置 尾道市久保町字築地丙644
 構造 RC造, 折版構造, 一部ラーメン構造, 地下1階, 地上2階
 敷地面積 2,330.32m²
 延面積 2,369.83m²
 地階 343.08m²
 1階 1,652.84m²
 2階 381.91m²
 敷地盛土量 13,909.00m³
 護岸延長 95.70m
 高さ 軒高 折版部
 パラペットまで 10.49m
 プロセニウムタワまで 17.68m
 工期 昭和37年1月10日~38年3月25日



玄関ホール

正面および北面外観





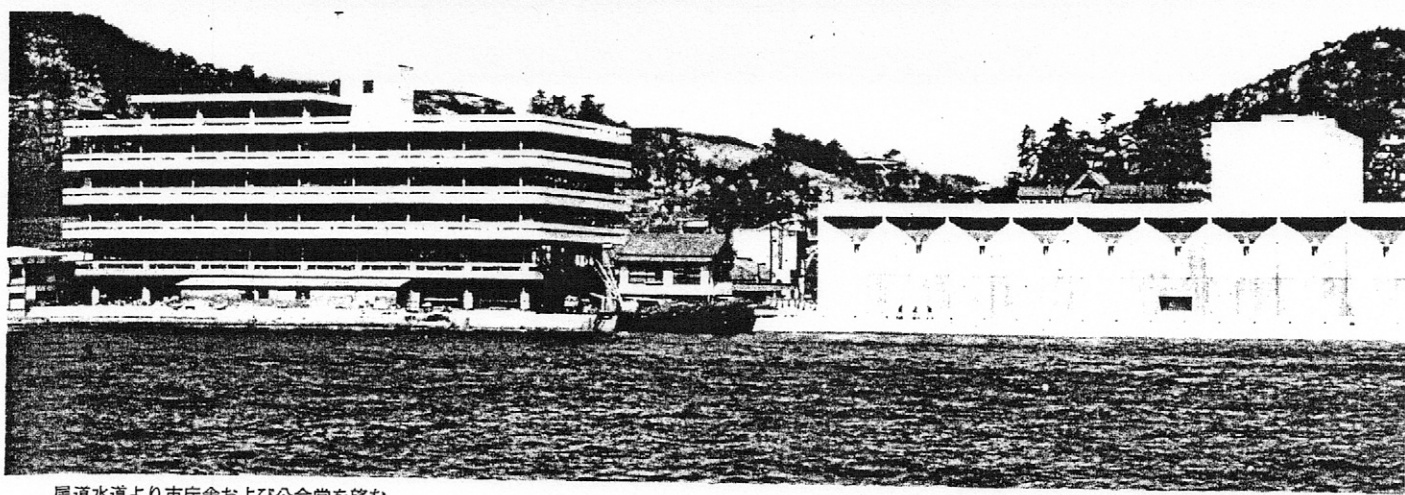
観客席サイド

観客席と舞台正面



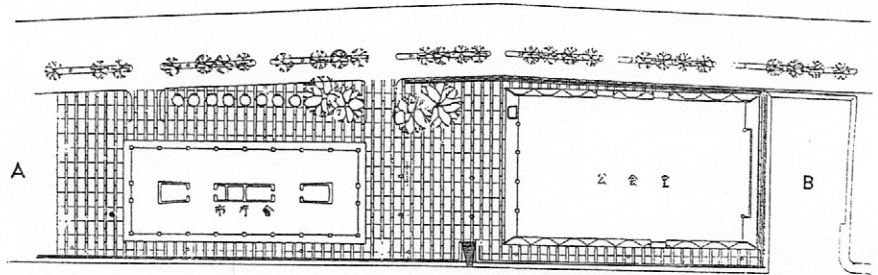
尾道市公会堂

設計監理 財団法人 建築研究協会
 (京都大学増田研究室担当)
 施工 株式会社 大林 組



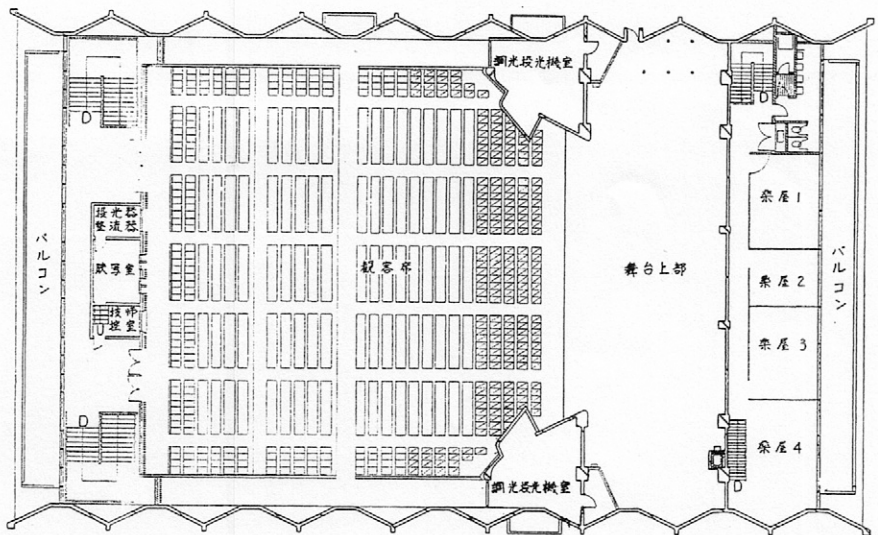
尾道水道より市庁舎および公会堂を望む

尾道市公会堂

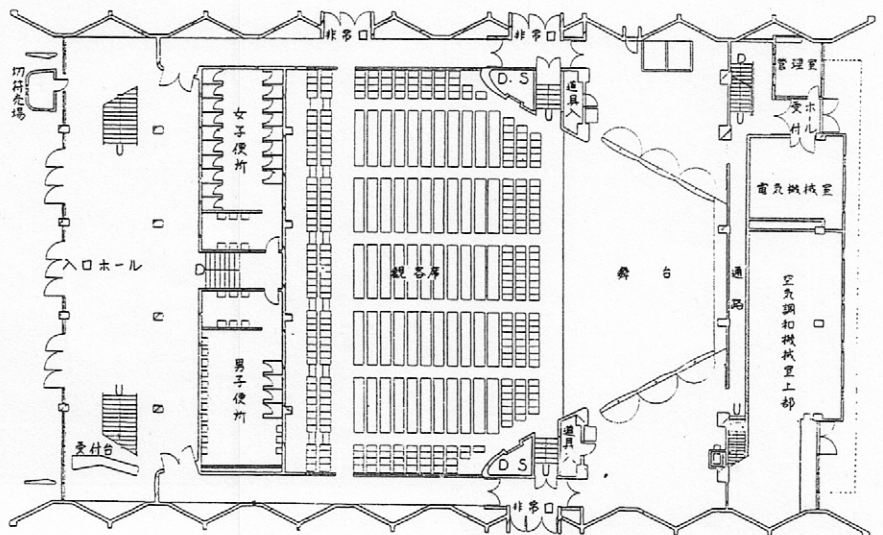


尾道市庁舎と公会堂の配置図

A: 将来の議会関係棟敷地 B: 船溜り



2 階



1 階

